

平成23年度大学図書館職員短期研修  
(京都大学会場)  
2011年10月4日

# 大学をとりまく課題と 大学図書館の役割

京都大学附属図書館研究開発室  
准教授 古賀 崇

tkoga@kulib.kyoto-u.ac.jp

[http://researchmap.jp/T\\_Koga\\_Govinfo/](http://researchmap.jp/T_Koga_Govinfo/)

# 本講義の内容

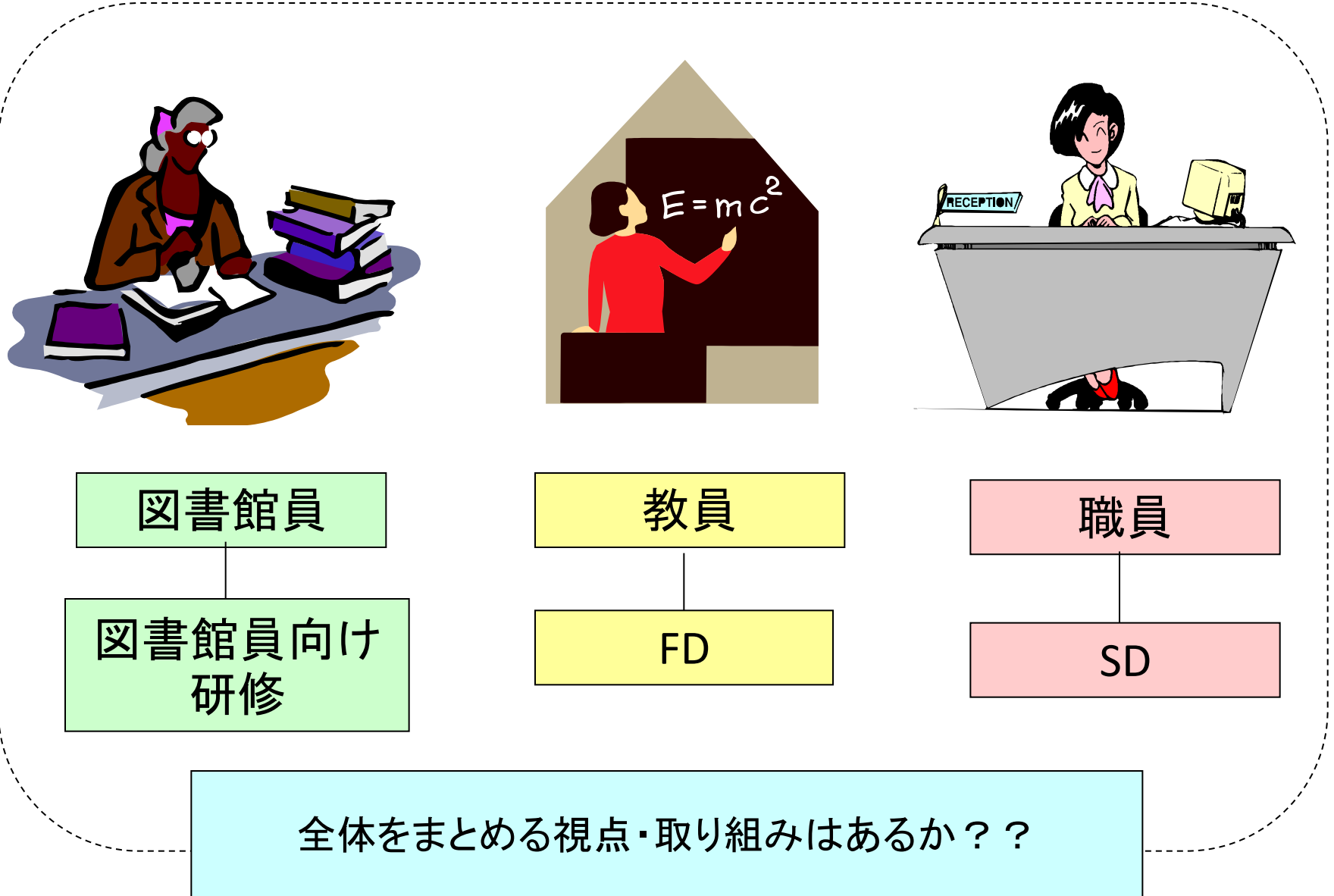
- 大学をとりまく現状
  - 「ギャップ」と「接続」をキーワードに
- 教育・研究活動の電子化をめぐって
  - 「知」はいかに変化するか！？
- 大学図書館の今後の役割は？

# おことわり：講師の立場

- 「大学図書館」での「研究開発」を行う者として、  
教員として大学図書館に配置される
- 「情報リテラシー教育・講習」活動に携わる
  - 京大全学共通教育科目「情報探索入門」  
[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content\\_id=3](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=3)
- 「大学(高等教育)研究」の専門家ではない
- より詳しくは...
  - 拙稿「京都大学附属図書館研究開発室の活動について」『名古屋大学附属図書館研究年報』No. 9, 2011, p. 13-20. <http://hdl.handle.net/2433/139495>

# 大学をとりまく現状

# そもそも...



# 「ギャップ」と「接続」

営利・非営利組織／社会

大学

大学院

「知」の  
あり方

高校  
(+ 中学)

国際的動向  
「ガラパゴス化」

# 高校－大学の「ギャップ」と「接続」

- 教育・学習のスタイルおよび内容のギャップ
  - － 例:「政治経済」と「経済学」
- 「初年次教育」の役割と類型（後掲『研究ベース学習』p. 12～より）
  - － スタディスキルアップ型
  - － アイデンティティー形成型
  - － セルフエスティーム向上型
  - － オナーズ型

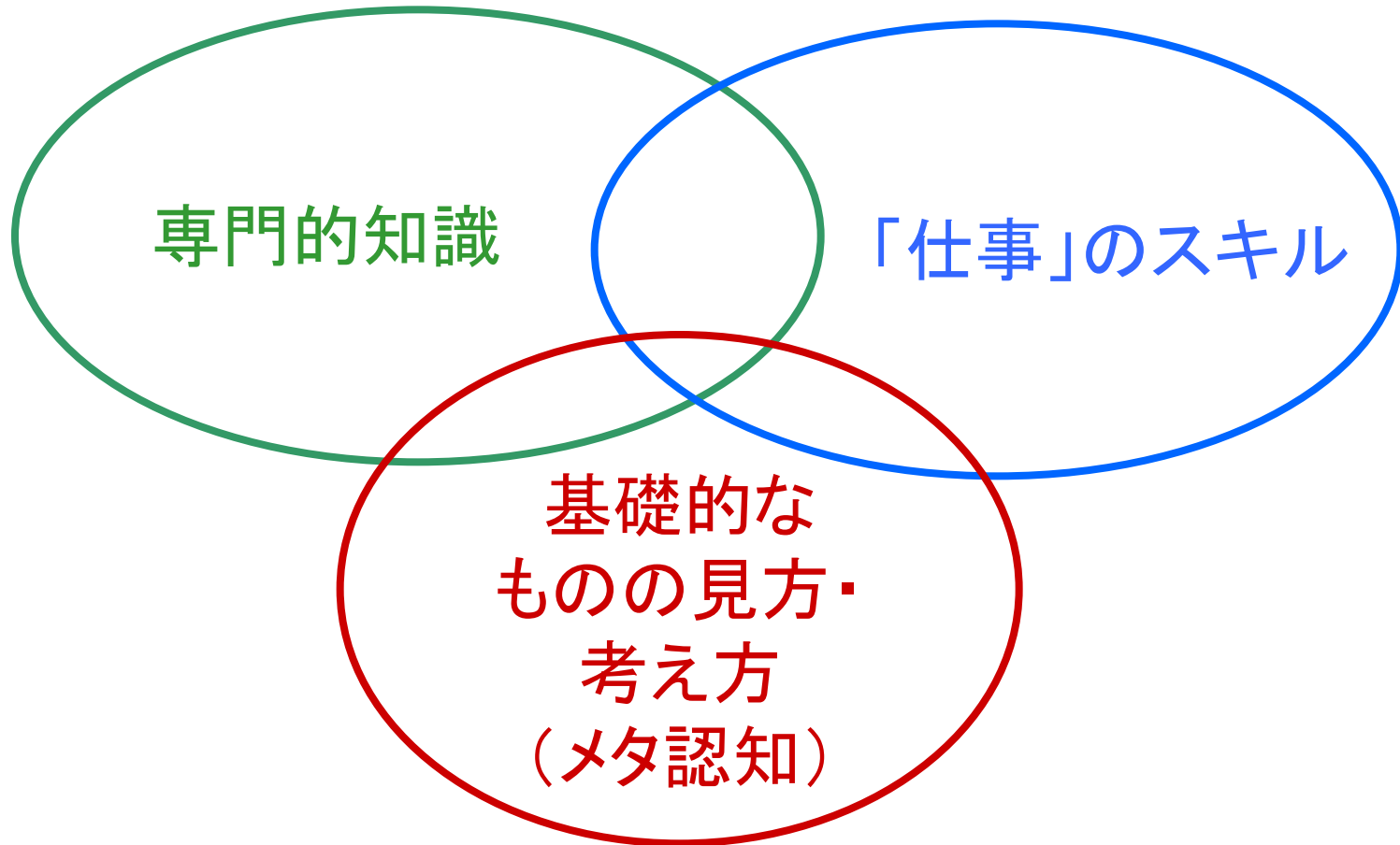
【関連】松野弘編著『大学生のための「社会常識」講座：社会人基礎力を身に付ける方法』ミネルヴァ書房, 2011.

# 日本での大学教育をめぐる ギャップと対策

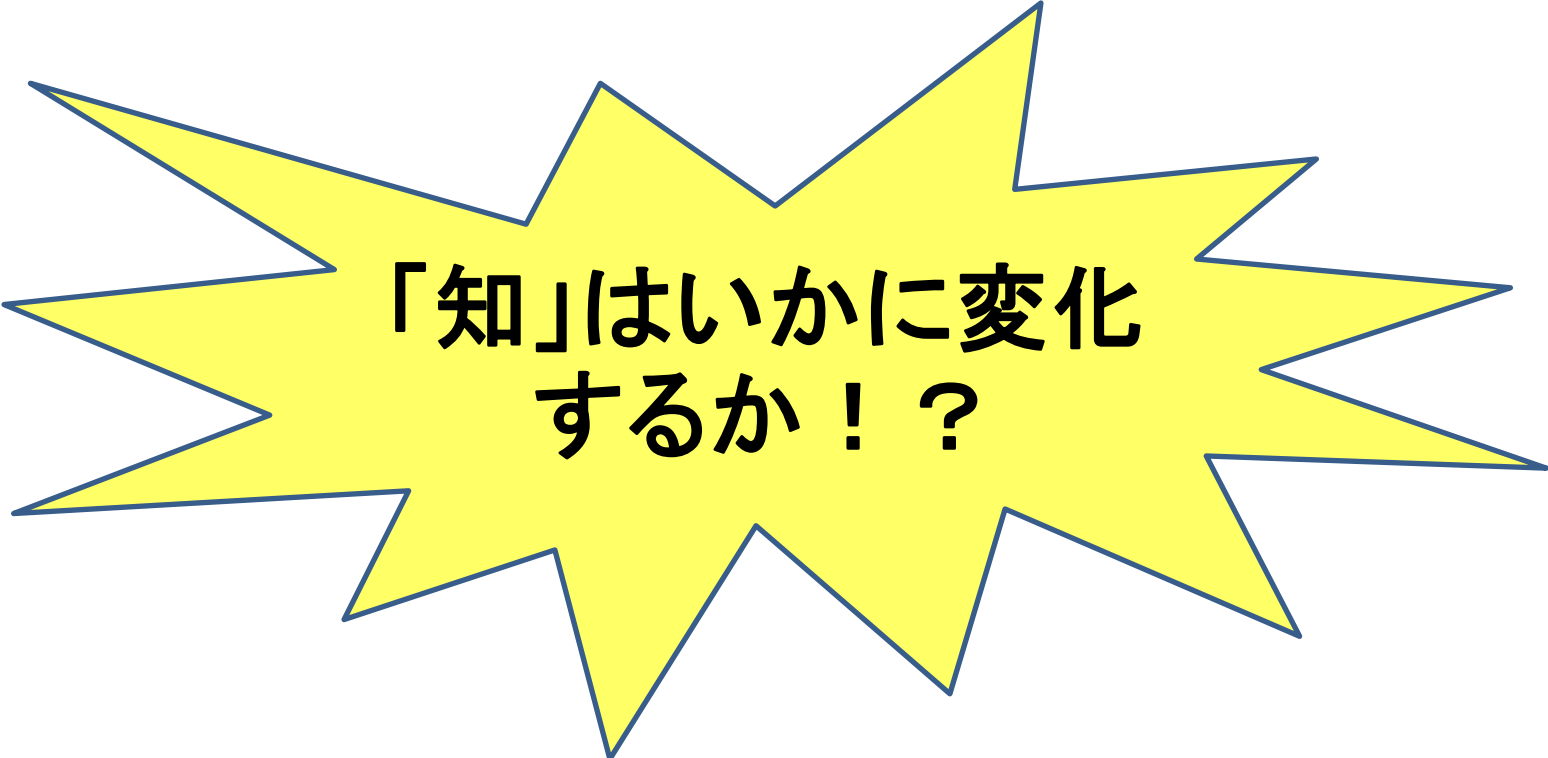
- 金子元久「大学教育の転換と図書館」『丸善ライブラリーニュース』No. 13, 2011.7 より...
  - [http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib\\_news/pdf/library\\_news164\\_04\\_05.pdf](http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/pdf/library_news164_04_05.pdf)
- 大学の教育面での強化・工夫が、「学生が自律的に学習すること」に結びついていない
- 授業スタイルの変化とともに、「図書館など学生が自主的に学習する環境」が必要
- 図書館の位置づけ・設備の変化(例:ラーニング・commons)は進むが、個々の授業の変化や大学全体での教育改革とは必ずしもうまく結びつかず



# 大学教育に関するポイントは？

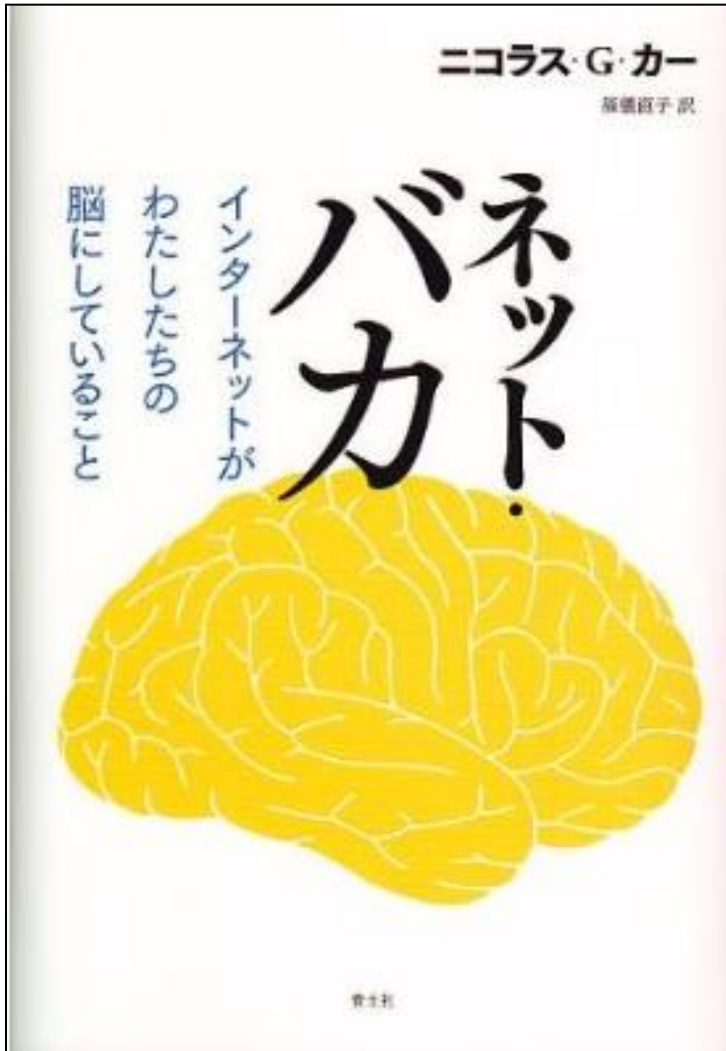


# 教育・研究活動の電子化 をめぐって



**「知」はいかに変化  
するか！？**

# 議論の素材(その1)



- ニコラス・G・カー(篠儀直子訳)『ネット・バカ: インターネットがわたしたちの脳にしていること』青土社, 2010。(原著2010)

# 『ネット・バカ』の概要

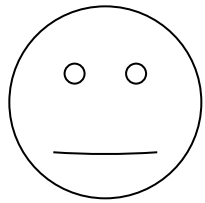
- マクルーハンの「メディアはメッセージである」のテーゼを、歴史的に検証
  - 音声文化→文字文化、印刷と読書、コンピュータとインターネット...
  - 「図書館の変容」にも言及
- その中での「知のあり方」の変化
  - 脳ないし「認知能力」の変化を追跡
    - 例:「情報の読み取り方」

# ネット以前

# ネット環境下

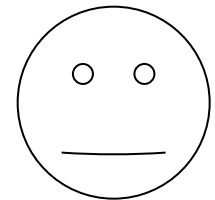
## 脳の順応

- ・テキストを直線的に読む
- ・深い読みが奨励される



テキスト

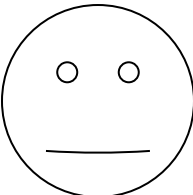
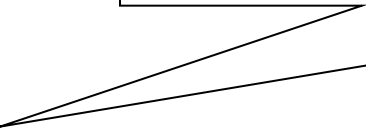
- ・テキストやリンク先の情報を「スキャン」
- ・集中した読みには適さない



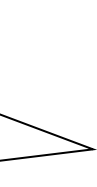
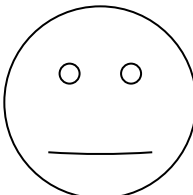
テキスト＋  
ハイパーリンク

# 「知」や「能力」への見方 (p. 158～)

- ・従来理解されてきた意味での識字能力は、社会を構成する力とは、もはやなりえない
- ・ウェブのあらゆるところで接続し、あらゆるものと近接する世界＝絶えず流動するコンテキストのなかで生じる意味を発見することが、最大のスキルである世界
- ・教師も生徒もこの世界に参加すべきとき



注意散漫状態での思索を“よし”とすべきか？



# 研究世界への影響 (p. 298～)

論文

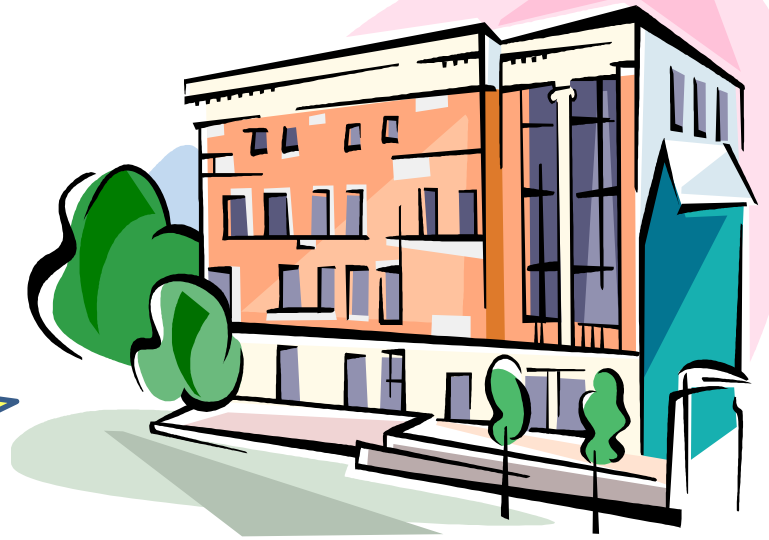
引用

論文の電子化→検索の容易さで、  
引用の幅はかえって狭くなる  
＝「普及している意見」への追随  
(シカゴ大の研究者の調査による)

【同様の指摘】

佐藤文隆『孤独になったアインシュタイン』岩波書店, 2004.  
(特に第7章)

「知」はいかに  
に変化する  
か！？



図書館は「知の変  
化」にどう対処すべ  
きか？



大学図書館の  
今後の役割は？  
(古賀としての思い)

# 議論の素材(その2)



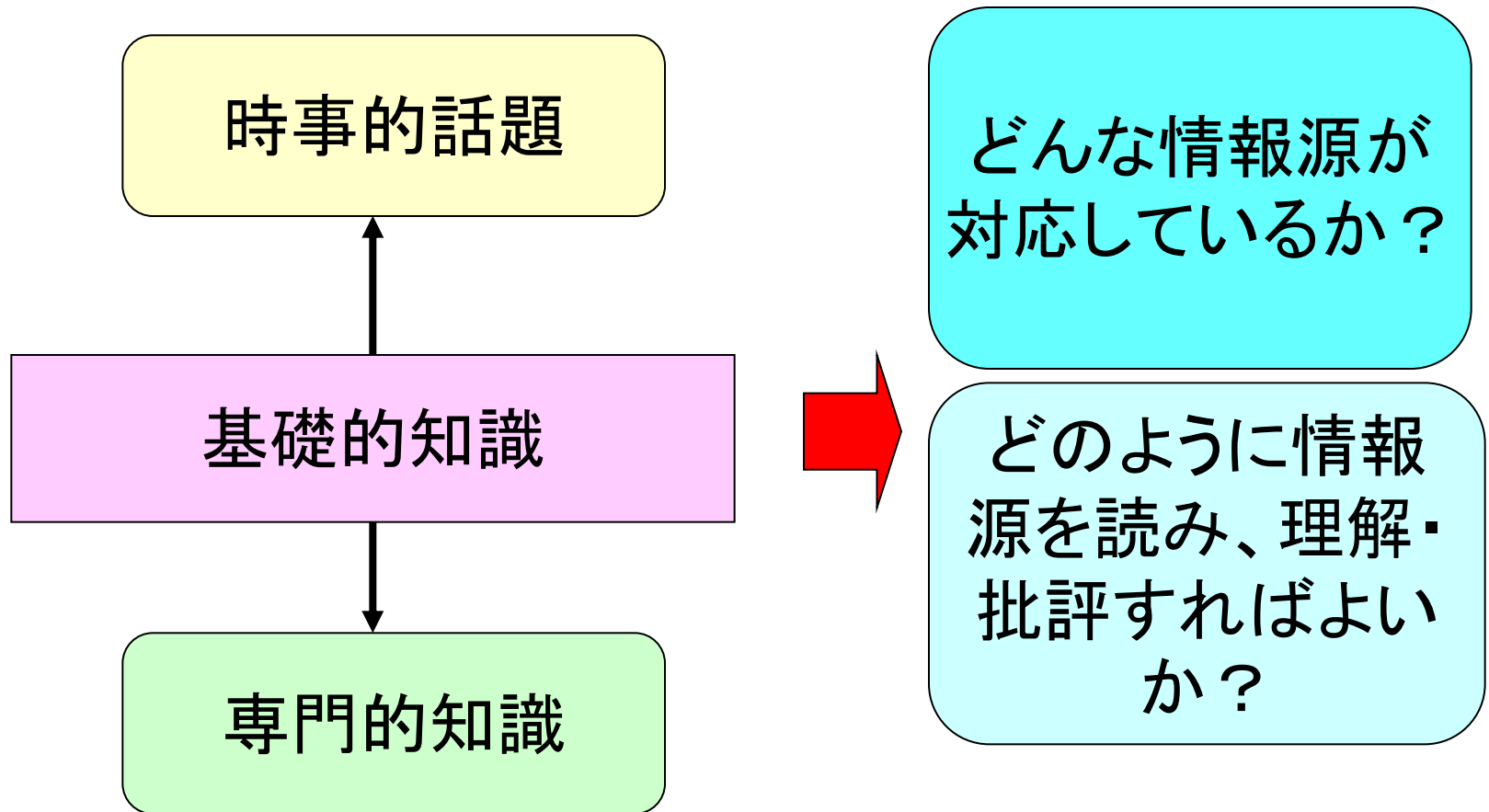
- 小山田・日置・古賀・持元『研究ベース学習』(コロナ社, 2011)
- 前述の「初年次教育」のためのテキスト。全5章＋付録(授業の実例)
- 古賀は4章「学術文献の探索と評価」を執筆

# 議論の素材(その3)



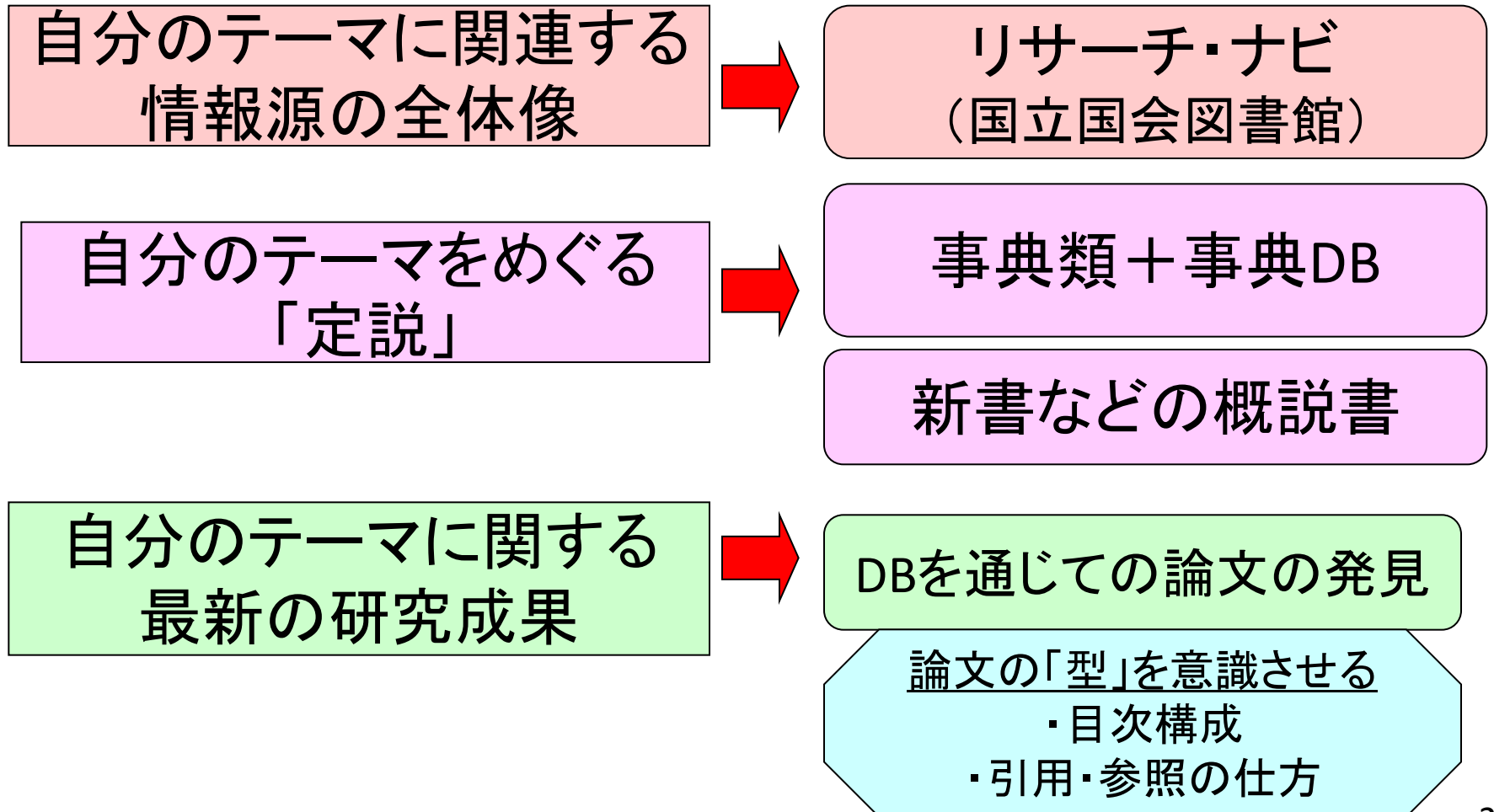
- 妹尾堅一郎『知的情報の読み方』水曜社, 2004.(左記)
- 妹尾堅一郎『考える力をつけるための「読む」技術』ダイヤモンド社, 2002.

# 求められる方向



# 情報源の「読み方」

(京大2011年度前期の新生対象「ポケットゼミ  
: 情報源を読み解く」での試み)



# 今後の課題

- 図書館における講習は「インプット」志向だった  
→「アウトプット」(レポートの書き方など)にどう  
つなげるか
- 段階を踏んだアプローチ
  - 入学時 / 卒論執筆時 / 大学院生に向けて
  - 「新任教員研修」などでのアピールも
- 多様な情報源への対処
  - 統計データなど
- 「変化する教育・学習スタイル」への対処
  - この後の「協同学習」に関する研修を手がかりに...

# まとめ

- 「知のあり方の変化」のなかでも、「多様な知の蓄積と現状」を示す図書館の役割
- 加えて、こうした役割を学内・学外にいか  
にアピールするか
  - 冒頭の「図書館員・教員・職員の全体をまとめる視点・取り組み」にもつながる
  - 企画・提案面での向上が重要

# 参考文献(さらなる考察のために)

- 『リーディングス 日本の高等教育』玉川大学出版部, 2010-2011, 全8巻.
- アレクサンダー・ハラヴェ(田畑暁生訳)『ネット検索革命』青土社, 2009.
- 佐藤郁哉, 芳賀学, 山田真茂留『本を生みだす力: 学術出版の組織アイデンティティ』新曜社, 2011.